



〈目次〉

特集:福祉教育って何ですか？  
 野尻紀恵先生インタビュー …… 1  
 NPO法人オアシスの出前講座 …… 4  
 新潟市社協の福祉教育 …… 5  
 H29福祉教育セミナー開催報告  
 サマチャレ2017開催しました! …… 6  
 新潟市内ボランティア・市民活動センターちっとばかインフォ  
 …… 7  
 ♪情報BOX♪ ボランティア募集情報 …… 8  
 kirarin ☆よんコマ劇場

**特集 福祉教育って何ですか？**

私たち社会福祉協議会が目指す『共に生きる心』を育む福祉教育。その先駆者・野尻紀恵先生は、高校の教員から福祉を学ぶため大学院への進学を決意した！ 野尻先生に福祉教育のダイナミズムについて伺いました。

学校をやめていく子どもたちを  
何とかしたい

赴任した学校が人権教育などに力を入れている神戸の私立女子高で、福祉教育指定校の助成金をいただいた時、福祉教育の担当になりました。

校長先生が助成金で掃除道具を購入してくれたのですが、具体的にどうしたらいいか見当がなかったので、とりあえず福祉のことなら社協に聞こうと訪ねてみました。

「何のために掃除に行くのか、目的が立てられれば掃除も立派に福祉教育になりますよ！」と社協の方にヒントをいただき、掃除の目的を何とするか宿題をもらいました。

その頃の私の悩みが、子どもたちが学校をやめてしまうことでした。学費が払えなくてというケースもありましたが、非行傾向がある生徒や学ぶ目的を見失っている生徒もいました。

でも人権教育でハンセン病の話をする時、そういう子どもたちが涙したりゆるせないって怒ったり、もし自分



**野尻紀恵 (のじり きえ) さん**

日本福祉大学社会福祉学部 准教授  
 日本福祉大学災害ボランティアセンター長  
 日本福祉大学スクールソーシャルワーク教育課程 委員長

だったらって置き換えたり、とても感性が豊かなんです。すごく思いやりもあって、いいところもいっぱいあるのに、ひとたび自分の生活に立ち戻ると踏ん張りが利かないというか、環境の悪さに沈んでしまうというか。

福祉教育の文献を調べてみると、福祉教育に関わると自己肯定感が高まるとある。それって、この子たちにすごく必要なことじゃないか。福祉教育を通して、今この子たちを取り巻いている狭い人間関係の枠を超えた、別の関係性が生まれるじゃないか、そういう人と出 **会** えるんじゃないかと考えました。

## 福祉教育で子どもが変わる、 地域が変わる

ふと苦情電話のことが頭に浮かびました。道端にゴミを捨てているとか、広がって歩いているので注意したら逆切れされた、というような苦情の電話がかかってくる場合があります。この子たちの良い面や学校のことを知ってもらい、地域に受け入れてもらえれば、苦情はきっと減るはず、と頭をひねりました。

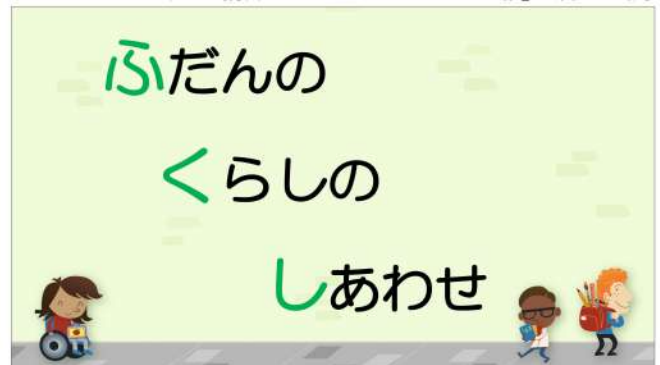
そこで、生徒も担任もクラスの枠を取っ払って、通学通勤で利用する最寄り駅に集合、1年生全クラス総勢およそ700人が6つの駅付近のゴミを拾うクリーン大作戦を決行しました。

掃除をしていると、関西特有なのかもしれないけれど子どもに **声** を掛けてくれるんですよ、地域のおばちゃんたちが。「どしたん、なにひらってるん」って。学校行事と答えると、いいことやってるね、ありがとうねってほめてくれる。

「ハイ! ゴミひらってるんです!! ありがとうございます!」。日ごろ教師に対しての不機嫌で反抗ばかりしているあの子が、こんなに生き生き掃除して、ちゃんと受け答えして、敬語も使ってる!! おばちゃんたちも嬉しくなって一緒にゴミ集めしてる! すごっいな福祉教育の力って、とハマりました。



H29/6/24 野尻先生講演「子ども食堂ボランティア研修」資料より引用



が、ふ・く・しです。

## 頑張っているから助けてあげるって なんかおかしい

同時に、この子たちは私たち教師にこんな素敵な顔を見せてくれたことなかったなあ、と気づきました。私たちは学校でこの子たちの一面だけ見て評価していたんじゃないか、とすごく反省しました。

教師って常にオーバーワーク気味なので、福祉教育を面倒と思う先生もいました。でも不思議なもので、子どもの表情が変わってきた、生き生きとしてきたってことにはめっちゃめっちゃ敏感で、生徒が変われば先生も変わってくるんですよ。

福祉教育をやっている、という教師たちの思いがひとつになり、毎週1回の定期的な授業として福祉教育が位置付けられました。そして、車椅子やアイマスクなどの体験学習で回を重ねるうちに、今度は感想文が気になりだしたんです。

「障がいを持っている人は頑張っているから、できないことがあったら私たちが助けてあげます」と書いてあるのです。障がいを持っている人たちは、あなたたちよりもずっと大人で、人生経験も積んできているのに「**助**けてあげます」はおかしくないか、と気になりました。

もうひとつ気になったのが、アイマスクを取った後に「私、目が見えてよかった」「ほんとだよなー」というような会話。悩んだ末、学校に講師で来てくれていた当事者の方に相談してみたんです。なんでこうなるんだろう? って。

## “車椅子の人”から ひとりの「ひと」へ



「そりゃそうなるよ。当事者の日常の中でいちばん困っている場面だけを切り取って見せるんだから当然。プログラムがまちがとる」と言われました。

「僕のことを知ってもらって授業をやらせよう」ということになり、まず生徒に自発的に質問させました。困るのはどういう時かって聞いて、当事者にもっと面白い質問をせよと言われて、おずおずと趣味を聞くと、趣味は飲むこととカラオケと返答がくる。思わず「車椅子の人ってお酒飲むの？」と反応したり、やんちゃな子は「お酒飲んで車椅子動かしたら飲酒運転なるんっちゃう？」なんてツッコミ入れたり、みるみるうちに質問が **変** わってくるんですね。

「彼女いますか？」「嫁がおる」「えー！ 車椅子の人も結婚するんだ」「嫁も障がい持っとる」「どうやって生活してるん？」

どんどん人間と人間の会話になっていくんです。当事者が“車椅子の人”からひとりの人間に変換していく、これが福祉教育の真髄なんだ、と気づかされました。

## 人には力があることを 福祉が私に教えてくれた

阪神淡路大震災が契機で学校と地域の信頼関係が深まったと感じたとき、もう一歩地域に踏み出したプログラムを考えたいと思いました。自己肯定感が低いためにうまくいかないことが多いこの子たちに、あなたの存在は人に認められているよ、と伝えて卒業させてあげたい。そう強く願ったのです。人との出会いが自分の世界を広げるようなプログラムが作りたい。そう言い続けていた私に、地域の多くの人たちが寄ってたかって知恵を出してくれてました。

それによってできたプログラムは、市内約90ヶ所の福祉施設に高校生たちが2~3人一組になって2日間体験に行き、その体験を通して学んだことを活かして小学生が理解できるような福祉教材を作る、というものでした。この福祉教育プログラムはこれまでにないものだったこともあり、高校の職員会議を通すのに3年かかりました。

私がやり通せたのは、知恵を出してくれた人たち・賛同してくれた先生仲間、施設に協力を取り付けてくれた社協、何よりたくさんの方々がこのプログラムに関わり期待してくれていたからです。

このプログラムの実践を通して、誰かのために役に立つということが、こんなにも人を一生懸命にさせるんだな、と感動しました。

この時に学ばせてもらった福祉教育が自分のベースになっていて、スクールソーシャルワークを教える立場となった今でも、どうすればこの子が活躍できるんだろう、そのためにはどんな社会資源を使う必要があるんだろうという組み立て方をしています。

人は **力** があるということ、福祉教育の実践が私に教えてくれました。どんな人も力を持っていて、どんな人も社会で活躍できる存在感を持っていて、それができるかどうかはその社会にかかっている。だからこそ福祉教育が必要なんだ、と理解したのです。

振り返ってみれば、いちばん福祉教育を受けてきたのは私自身だったんじゃないかとすごく感じています。

## NPO法人障害者自立支援センターオアシスの出前講座

オアシス（西区松美台）は、小学校や中学校の総合的な学習の時間で、目の不自由な人を知ってもらうための出前授業をしています。スタッフ・当事者合わせて5～6人、巨大な拡大読書器も持ち込んでの『共に生きる』を伝える授業です。



事務局及び相談員の小島 紀代子さん

### ❁ 感覚で伝える

目が不自由といっても全盲の人だけでなく、緑内障や視野が欠ける人の見え方など、見えなさにも違いがあることをスライド映像で伝えたり、実際に目をつぶって見えない気持ち感じたり、字を書くなど見えなくてもできることをやってみたりと、感覚で伝えることからオアシスの授業はスタートします。

### ❁ どんな活動をしているか紹介する

毎月2回、視覚障がい者のリハビリテーション外来を開催していること。内容は眼科相談、移動・歩行訓練、パソコン・ipad・拡大読書器の操作教室などがあること。それらは視覚に障がいがあっても自立できるためのプログラムであることを伝えていきます。

中でもオアシスらしいのが、パソコンなどの操作教室。先生は元生徒で「できるようになった人が教える」というシステムです。教える人は教えられるようになった自分を誇らしく思え、教わる人は自分にもできるようになるかもしれないと希望が湧く、文字通りお互いが助け合う教室となっています。

小学校の出前講座に参加する当事者の小菅さんと入山さん



### ❁ 当事者がインタビュー形式で語る

スタッフが当事者2人に以前の職業についてや、見えなくなった時の気持ちを聞いていきます。見えなくなったら悪いことばかりなのか、楽しいことはないのかといった問いも。

子どもたちは、本来なら当事者が話したくないと思われる悲しみや苦しみを話してくれることに感謝をしたり一緒に悲しくなったり、たとえ目が不自由でも仲間に出会えた喜びや、パソコンができるようになった楽しみがあることを知ります。

### ❁ 最後は子どもたちに質問

授業の最後は、スタッフが子どもたちに質問を投げかける時間です。

「もし君たちのお父さんが見えなくなったら？」

「もし君自身が見えなくなったら白杖を持てる？」

ネガティブな仮定にも関わらず、自分とは関係のない他人事と捉えずに、子どもたちは一生懸命考えながら答えてくれます。

### ❁ 『共に生きる』とは

子どもたちは人の痛みを感じる感性が鋭い、と小島さんは言います。白杖が持てない当事者の気持ちを敏感に感じ取って「それでも生きていかなければならぬから、僕は（僕が見えなくなったら）白杖を持つ」と力強い、励ますような言葉を放ちます。

出前講座に参加し、子どもたちの素直な言葉に勇気づけられて、白杖を持って歩く訓練を始めた当事者もひとりやふたりではありません。

「痛みを感じ、一緒に考えること。それが共に生きるということではないでしょうか」小島さんの言葉です。

NPO法人障害者自立支援センターオアシス 平成18年9月設立：代表者 山田幸男（やまだ ゆきお）：連絡先025-267-8833（火・水・木・土）  
活動拠点 有明福祉会館2F（新潟市西区松美台3-20）：会員は眼科医、内科医、日常生活訓練士、元盲学校の先生、MSW、栄養士、看護師、保健師、機能訓練士、視覚障害者、その家族、ボランティアほか

## 新潟市社協の福祉教育

しだ ひでお 中央区社会福祉協議会  
志田 英男 ボランティアコーディネーター

社協に入社したときから20年近く、学校・企業・地域等の依頼に応じて福祉教育に関わっています。小・中学校は総合的な学習の時間で子どもたちに疑似体験をさせたいという依頼が多く、高校・大学からはボランティアについての講義、企業からは接遇のための障がい者理解についての研修、自治会等からは防災訓練での高齢者避難についての研修依頼が多い傾向です。こうした依頼に応じて講義や疑似体験に出向くのですが、私たちにとってその場こそが福祉教育を実践する場です。28年度、中央区社協では30ヶ所でおよそ3000人の方々を対象に福祉教育を実施してきました。

福祉教育で行われる疑似体験は障がいのある方の気持ちを理解するきっかけづくりとして大切なものですが、気を付けなければいけないと肝に銘じたことがあります。10数年前、市総合福祉会館で小学生がアイマスクをして階段を下りる体験をしていた時、ある児童がお漏らしをしてしまったんです。目が見えない状態で、知らない建物の階段を降りることが、それほど怖かったんだと思います。



女池小学校（中央区）の総合的な学習の時間でゲストティーチャーをする

その子の怖さや恥ずかしさを考えると、本当に申し訳なく、「こんな体験は福祉教育ではない」と強く思いました。それ以後は学習の目的をより明確にし、子どもたちが楽しく福祉を学べるように効果的なプログラムを考えています。

大人でも子どもでも伝えることは同じです。できること、できないことは人によって違うもの。お互いの違いを認め合い尊重し合う相互理解が、福祉の基本だということを今後も伝えていきたいと思っています。

## 福祉教育セミナー開催報告

### 平成29年度福祉教育セミナー「先生のための福祉講座」

本年度の福祉教育セミナーは、サブテーマを「福祉教育で子どもたちに伝えたいこと・伝えるべきこと」とし、小中高の教職員、地域教育コーディネーター、行政職員、支援団体、新潟県内と当会の社協職員（コミュニティーソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター等）の参加を得て、7月31日(月) 市総合福祉会館で開催しました。

新潟市発達障がい支援センター<sup>JOIN</sup>の<sup>ただひとみ</sup>多田 比外美さんを講師に迎え、発達障がいの困り感を疑似体験したり、先生の理解の大切さや周囲の子どもたちに理解を促すときの具体的な方法などを学びました。



続いて、南区在住の水野<sup>みずの たかし</sup>駿さんと同区ボランティア<sup>たむら</sup>コーディネーター田村の対談では、目が不自由になっ



水野さんのお子さんも飛び入り参加

た時のいきさつやその後の生活、外の世界に踏み出すきっかけ、ゲストティーチャーとして子どもたちに伝えたいことをお話いただきました。

最後は6つのグループに分かれての意見交換。マイナスイメージで終わらない福祉教育のために必要なことについて話し合いました。



#### 参加者の声（意見交換会アンケートより抜粋）

- 私たちの意識が変わること、変わることもある、そう思えた
- 当事者と関わることで会った時に声を掛けられるようになった
- 障がいを持っている方に実際に接することが、やはり大切であることを実感した
- 障がいがあってもなくても水野さんのようにありたい
- これからも横のつながりのある学習会を開いて欲しい



# サマ-チャレンジ ボランティア 2017

## 開催しました!

7/28~8/16の期間で開催した「サマチャレ2017」。  
夏休みの期間中、様々な活動メニューの中から学生のみなさんが自分がやってみたいボランティア活動にチャレンジする企画です。  
今年は112名の学生が51の施設で、のべ214回のボランティア活動にチャレンジしました。訪問した施設の内訳は、高齢者施設93回、障がい者施設43回、こどもの施設78回です。  
参加した学生たちは、たくさんの人達に出会い様々な活動を体験しました。これをきっかけにボランティア活動が生活の一部になるなど、サマチャレでの経験が今後の人生のさまざまな場面で活かされることを願っています。



デイサービスセンターで  
お茶出しのお手伝い



たくさんの学生が学び、大きな笑顔を地域のみなさまにお届けしました!



利用者さんと楽しくお話♪



子どもたちと一緒に作業しています



放課後児童クラブの子どもたちに自己紹介。  
ちょっとドキドキ


# 新潟市内ボランティア・市民活動センター ちっとはかインフォ

北区

平成 29 年 11 月 26 日(日) /  
北区地域福祉推進フォーラム  
ボランティアスタッフ  
募集中(\*^\_^\*)  
詳細は北区社協まで  
ご連絡お待ちしております!!

〒950-3323 北区東栄町1-1-35 豊栄さわやか老人福祉センター内  
☎ 025-386-2810 / FAX 025-388-2914

東区

☀ 東区 登録ボランティア募集中!! ☀  
楽しみながら、趣味や特技を  
生かして活動してみませんか?  
☆歌、踊り、体操、演奏などの披露  
☆短歌、将棋、手芸、折り紙 など  
ご連絡お待ちしております 

〒950-0885 東区下木戸1-4-1 東区役所 1F  
☎ 025-272-7731 / FAX 025-272-1756

中央区

～ボランティアフェア 2017～   
～ボランティアってなに?来て見て聞いて!～  
開催決定!  
主に中央区で活動しているグループ・団体が活動紹介をします!  
【日時】平成 29 年 11 月 26 日(日) 10:30～15:00(予定)  
【会場】新潟市総合福祉会館 2 階 多目的ホール  
ボランティア 募集中!  
会場設営、着ぐるみ、出展ブースのお手伝い  
場内アンケート、赤い羽根共同募金活動 etc 

〒951-8062 中央区西堀前通6番町909 Co-C.G.3F  
☎ 025-210-8730 / FAX 025-210-8722

江南区

趣味や特技をいかして  
ボランティア活動も  
してみませんか。  
個人でも 団体でも  
歌・踊り・演奏・マジック  
川柳・書道・折り紙・囲碁  
将棋・等々 分野は  
問いません。 <白倉>

〒950-0155 江南区泉町3-3-3 江南区福祉センター1F  
☎ 025-250-7743 / FAX 025-250-7761

秋葉区

秋葉区ボランティア・市民活動センター  
だよりの名前が新しくなりました!  
『ボラ😊フル』   
Volunteer x Colorful  
ボランティアっていろんなカラーがあってステキ!  
新しくなった秋葉区ボラセンだよりを  
よろしくお祈いします!

〒956-0864 秋葉区新津本町1-2-39  
☎ 0250-24-8376 / FAX 0250-23-3322

南区

南区 健康福祉  
フェア  
南催  
10月7日(土)  
10時～15時15分  
自根学習館  
きてね   
田村


〒950-1214 南区上下諏訪木817-1  
☎ 025-373-3223 / FAX 025-373-6125

西区

ボランティアはじめての一步   
傾聴力 を 育てませんか?  
第1回 10/3(火) 13:30～16:00  
第2回 10/17(火) 13:30～16:00  
講座実施 予定です  
会場 西区役所 健康センター棟 1 階 104 会議室  
詳しくは下記までお問い合わせください 

〒950-2054 西区寺尾東3-14-41 西区役所健康センター棟1F  
☎ 025-211-1630 / FAX 025-211-1631

西蒲区

はじめの一步は 聴くことから  
傾聴講座   
第1回 9月26日(火) /  
第2回 10月10日(火) 13:30～16:00  
第3回 10月24日(火) / (全3回コース)  
場所: 巻ふれあい福祉センター  
(西蒲区巻甲4363番地)  
申込締切: 9月20日(木)まで 先着20名

〒953-0041 西蒲区巻甲4363 巻ふれあい福祉センター1F  
☎ 0256-73-3565 / FAX 0256-73-4914

## ♪ 情報BOX ♪

ボランティア募集の情報を掲載しています  
掲載をご希望の方は下記の＜発行・お問い合わせ先＞までご連絡ください  
紙面の都合により掲載できない場合もあります

### 県立がんセンター新潟病院でボランティア

- ・活動内容
  - ①からだのとしょかんでの図書貸出  
月・火・水・金 10:00～12:30 と 12:30～15:00
  - ②あかね文庫で病棟を回って本の貸出  
毎週木曜日 13:30～15:30
  - ③総合案内 平日9:00～11:00
  - ④小児科入院患者さん（主に高校生）の学習支援 随時
  - ⑤小児科病棟での子守り 随時
- ・活動場所 がんセンター（中央区川岸町2-15-3）
- ・問合せ先 025-266-5161 相談支援センター 神保 しんぼ

### サウンドテーブルテニスお手伝いボラ募集

- ・活動内容 サウンドテーブルテニス（視覚障がい卓球）は、金属球が入ったボールで音を頼りに打ち合う競技。卓球台の設置や試合進行の補助、ボール拾いなどのお手伝いをしてくださる方を募集中。卓球の知識や経験は必要ありません。
- ・活動日時 毎月第1・第3火曜日 13:30～15:00  
※変更になる場合あり
- ・活動場所 新潟ふれ愛プラザ（江南区亀田向陽1-9-1）
- ・問合せ先 025-283-6739 STTふれ愛クラブ 越澤 こしざわ

### 料理好きの方、集まれ！ 調理ボラ募集

- ・活動内容 ボランティアランチは高齢者や障がい者のお宅の見守りや声掛けを目的とした配食サービスです。  
一緒にお弁当作りをしませんか？
- ・活動日時 毎週火・木曜日 9:00～12:00頃
- ・活動場所 市総合福祉会館（中央区八千代1-3-1）
- ・問合せ先 025-243-4379  
万代ボランティア市民センター 志田・藤代 しだ ふじしろ

＜発行・お問い合わせ＞

社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会  
地域福祉課 ボランティア・市民活動支援センター  
〒950-0909  
新潟県新潟市中央区八千代1丁目3番1号  
新潟市総合福祉会館3階

TEL : 025-243-4370 FAX : 025-243-4376  
E-mail : nvac@syakyo-niigatacity.or.jp



## kirarin☆ よんコマ劇場



日本アニメ・マンガ専門学校  
卒業生 きたがわ ゆき 北川 祐紀さん 作

◇お知らせ◇

ボランティア情報いがた「きらりん」の29年度の発行は、年4回となりました。発行号は、6月号、9月号、12月号、3月号です。  
次回12月号は、12月1日(金)発行予定です。

編集後記：福祉と教育は聞き慣れた言葉だから、「福祉教育」といわれるとなんとなくわかったように感じてしまう。大変お恥ずかしい話だが、私自身がそうだった。今回特集の編集を通して、福祉に携わる人はみな福祉教育の真髄に触れたらいいのと感じた。助けているつもりの方が助けられている、そんな気持ちをもたらしてくれる福祉教育は、生涯にわたる贈り物のように思えた。(うる)

ボランティアの心を探り、共に考えたい。新潟市のボランティア活動を今を知りたい。個性あふれる活動をつなぎたい。こんな時こうしたという現場の知恵を学びたい。誰かがい

ボランティア情報にいがた きらりん 発行の辞  
私たちの生活のまわりには、はつきりと見えないけれど大切なものがあります。それって何なの？現場を探索し、市民にとって実用的なボランティア情報誌を発行します。